

一月々市場へ持ち出し候商いもの、何品によらず下直（げじき）に
 売買致すべき事

附り、紫・紅梅染め其の外高料の染め、決して染め間敷、

其の余りは何品にても形（かた）なし、下直に染め申すべき事

一在々諸職人共党を結び、太子講（たいしこう）と名附け寄り合い
 いたし、細工の巧拙（こうせつ）をも分（わか）らず、一同手間賃引き
 上げ候趣相聞き候、以来右寄り合い候儀相止め、手間賃銀
 目（ぎんめ）の分は前々に復し、錢極めの分は相場に随い

引き下げるべき事

附り、日雇い人足賃も右に准じ引き下げるべき事

一田方植え付け後、土用中不時（ふじ）の冷氣にて、俄（にわか）に暑氣強く
 候えば、其の所に寄り虫付き等これ有る事候由、虫を防ぐも品々
 これ有り、先（まず）夜分畦にて火を焚き、明松（たいまつ）を燈し歩行、荏を
 ながし、から鉄炮を打ち、鉄炮を打つ事ならぬ土地は
 花火を建て、鯨の油を一畝に式三滴程宛打ちそゞぎ、
 鯨の油これ無き土地は、暁天（ぎょうてん）風上より石ばい（灰）をふり

かけ、根虫に候はば用水口より石灰を流し、虫を
 防ぐべし、翌年地しまり候はば、竹の葉・麦わら
 を入れ、切り返し申すべき事

一苗困い方は、早魃（かんばつ）又は水腐れ等にて植え付け成り難く、
 後れ候はば、土用入り候ては苗新根をさし候間、根付け
 宜（よろ）しからず、生え立たざる事に候、土用入り四五日前に苗を取り束ね、
 流れの水又は用水溜池杯へ、苗の根土に付けざる様に、
 途中に釣り置き、新根を出さぬ様に手当ていたし、縦苗

枯葉に成り候共苦しからざる間困い置き、雨ふり深田ハ水減らし候節、
 土用半ば過ぎ迄植え付け候共、一夜に根付き実法（みのり）候間、油断無く
 心得、尤も其の所の地味にも寄るべく間、平年に能（よく）様（ため）し置き、
 妙成る事を弁え、水旱の憂いを免（まぬが）るべき事

一近年連々と奢侈に押し移り、衣類・飲食・居住・日用の
 雑具に至る迄、美麗好き品を貧富ともに用い、自然と

諸色高料にも罷り成り、稼ぎの余徳（よとく）より一家の暮し方嵩（かさ）み、
 逼迫（ひっぱく）いたし候より欲心を起こし、本業（ほんぎょう）を疎（おろさ）かにいたし、